

コロナ危機を乗り越え 本来の政治 取り戻す契機に

誰もが
生きやすい
社会へ



県議会議員
山本のぶひろ



新型コロナ対策で熊本県に緊急要望

熊本県に緊急要望を提出

- 1、感染拡大止めるうえでPCR検査の拡大は不可欠
- 2、減収補てんにより、崩壊の危機から医療機関を守れ
- 3、自粛で困難に陥っている中小事業者への保障拡充を
- 4、困窮者の命と暮らしを守るため、県独自の支援を
- 5、国民に罰則を科す制度改悪の撤回を国に求めよ



県社協で困窮者の実情を訴える山本県議

熊本県社会福祉協
議会では、コロナ禍
で生活に困っている
人のための貸付制度
を申請しても、説明
もなく却下される事
態が生じています。
困っている人がます
ます追い込まれかね
ません。対応の改善
を強く求めています。

コロナ禍で困窮
それでも支援うけられず
救済を最優先に対応を

28の都府県が 独自の社会的検査

熊本県も実施を!

新規感染者減少の時
こそ検査を増やし、感
染を抑え込むべきです。
多くの県が踏み出して
いる医療・介護施設等
での社会的検査を熊本
県も実施すべきです。

ワクチンは新型コロナ感染症収束のため
の有力な手段ですが、まだ未知の問題も多
く抱えています。また、社会全体に効果が
広がるまでかなりの時間が必要です。検査
拡充や医療機関への支援など、感染対策を
疎かにせず同時並行で進めるべきです。

「ワクチン接種」
「感染対策」両立のためにも
医療支援と検査拡充を

中学1年に35人学級実現

熊本県教育委員会は、
新年度から中学1年生に
ついて35人学級を導入す
ると発表しました。少人
数学級を求めて議会請願
や署名の提出など行なっ
てきた保護者、先生らの
取り組みが力となり、一
歩前進です。

すすめる会の皆さんとともに、
県教育委員会に署名提出



商工団体とともに県に要望

雇用と事業を守る
支援策の拡充を

飲食業・観光業はもとより、
広範な中小事業者が危機に直面
しています。罰則による監視・
強制でなく、雇用と事業を維持
できる補償を行うよう県にせま
りました。

支援を必要としている人々に 希望をてらす取り組みの促進を

非正規雇用で働く方々や、
バイト学生らにコロナ不況
の影響が大きく現れていま
す。ボランティアによる食
料支援などもおこなわれて
いますが、本来暮らしを守
ることは政治・行政の責任。
支援制度や相談窓口の拡充
など、「困った人に寄り添っ
た対応を」と熊本県に要請。



多くの学生が集まった食糧支援会



日本共産党 県議会だより

2020年春号 熊本市中央区水前寺6丁目18-1
電話 096-333-2647 ファックス 096-385-0255 HP「日本共産党 山本のぶひろ」

コロナやその他の事でお困りごとはありませんか？
お気軽にご意見・ご要望をお聞かせください。
(☎322-2700)

認められない!

民意を無視した川辺川ダム建設復活

県民の宝・球磨川の清流守り、「ダムなし流域治水」を



山本のぶひろ県議

日本共産党の山本のぶひろ県議は、12月定例県議会での一般質問や県への申し入れなどを通じて、蒲島郁夫熊本県知事の「川辺川ダム」容認発言に対して厳しく抗議し、撤回を求めるとともに、豪雨被災者の生活・なりわい再建支援や被災地域の復旧・復興、「宝」である清流球磨川・川辺川を守り、住民の生命と財産を守る「ダムなし治水」を実現するために全力をあげています。



川辺川ダム建設問題で県に申し入れ

流水型(穴あき)ダムでも 命も環境も守れない

蒲島知事は川辺川ダムについて、「球磨川の環境に極限まで配慮し、清流を守る」ため、「流水型(穴あき)ダム」にすることを表明しました。ところが流水型ダムの安全性や環境に与える負荷の問題点について、何らまともな検討が行なわれていません。いっぽう流水型ダムを推奨する立場の学者から、現存する流水型ダムで「穴つまり」が引き起こされた事例が紹介されてきたことも判明。疑念が深まっています。



「空白の12年」なぜ放置された河川改修

7・4豪雨災害はまさに人災

「ダムを建設しないことを選択すれば、流域住民に水害を受忍していただくを得ないことになる」―2008年、「川辺川ダム建設白紙撤回」宣言直前の蒲島知事に対し、当時の国交省局長が放った言葉です。その後「ダムによらない治水」は進まず、局長の宣言どおり大変な水害が発生してしまいました。

「ダム建設しないなら水害受忍を」 当時の国交省局長が放言



清流の魅力・恩恵活かした復興を

人吉市は、観光や球磨焼酎など「清流」に関連した産業が、他の市に比べて突出して大きな比重を占めています。球磨川・川辺川からの豊かな恩恵を受け、地域の経済や住民の暮らしが支えられてきました。この清流を汚すことなく、後世に伝えていくことが被災地の復興の大きな後押しとなります。だからこそ、清流をこわすダム建設ではなく、「ダムによらない治水」をとことん追求し、実現させるべきです。

ダムによらない 治水の実現こそ 未来の繁栄につながる

すべて「ダム建設ありき」?

- ◎ダム建設前提で抑制された河川改修
宅地かさ上げが抑制された球磨村大坂間地区では、住宅が流され5人の犠牲が生じてしまいました。
- ◎疑問だらけの水害検証
災害検証では、根拠となるデータも示さず国交省は、「川辺川ダムがあれば被害減らせた」となどと強調。住民に開かれた公平な場での再検証を求める声が高まっています。
- ◎河川整備計画も策定せず
全国の一級河川の中で唯一「河川整備計画」を作らず、必要で実現可能な河川改修さえ放置し続けてきました。



人吉市を流れる球磨川の清流